

躯体構造検査

実施日	2021-06-12	
登録物件名	K様邸	NO.1
事業者名	デザインハウス甲府	
事業者立合者	梅屋大樹	
報告者	梅屋大樹	
総合判定	適合	

【凡例】「方法」欄 A:目視確認 B:計測確認 C:書類確認（設計図書含む）

「判定」欄 ○:適 ×:不適 -:該当なし（登録設計図書に記載がない場合を含む） 保留:判定保留

※目視・計測可能な部位で抽出確認し、保険の適否を判定します。

1.躯体工事

No.	項目	基準値	実測値	方法	判断
1-1	アンカーボルトの埋設位置は、間隔2m以内とする。	2mm	2mm	B	○
1-2	アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。	250mm	250mm	B	○
1-3	基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。			A	○
1-4	基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。			A	○
1-5	鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。			A	○
1-6	土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）			A	○
1-7	地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。			A	○
1-8	強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。	15%	12%	B	○

1-9	床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。				
1-10	外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。			B	○
1-11	外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。	2mm	2mm	B	○
1-12	鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか			A	○
1-13	接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。			A	○
1-14	壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する。			A	○
1-15	くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。（2枚張りの場合）くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。			B	○
1-16	壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける			B	○
1-17	壁ボードの空きは2mmを許容とする。	2mm	2mm	B	○
1-18	屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。			B	○
1-19	内側から見て屋根に外し釘かないか確認する。釘は合板端部より10～15mm離す。			A	○
1-20	勾配は適切か、水下・水上・けらばの各出寸法を確認する。			B	○
1-21	GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm内側に			B	○
1-22	建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下（流れ方向）は100mm以上、左右（長手方向）は200mm以上重ね合わせる。（未施工の場合、ブルーシート養生する）下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。（ルーフィング施工前に外し釘を確認）			A	○

1-23	屋根ルーフィングの立ち上がり250mm以上確保し、上端は気密テープで圧着する。かつ雨押さえ上端より50mm以上とする			B	○
1-24	小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。			A	○

【備考】

特記事項

--

1-1口アンカーボルトの埋設位置は、間隔2m以内とする。

備考



1-2口アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。

備考



1-3口基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。

備考



1-4口基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。(1/2)

備考



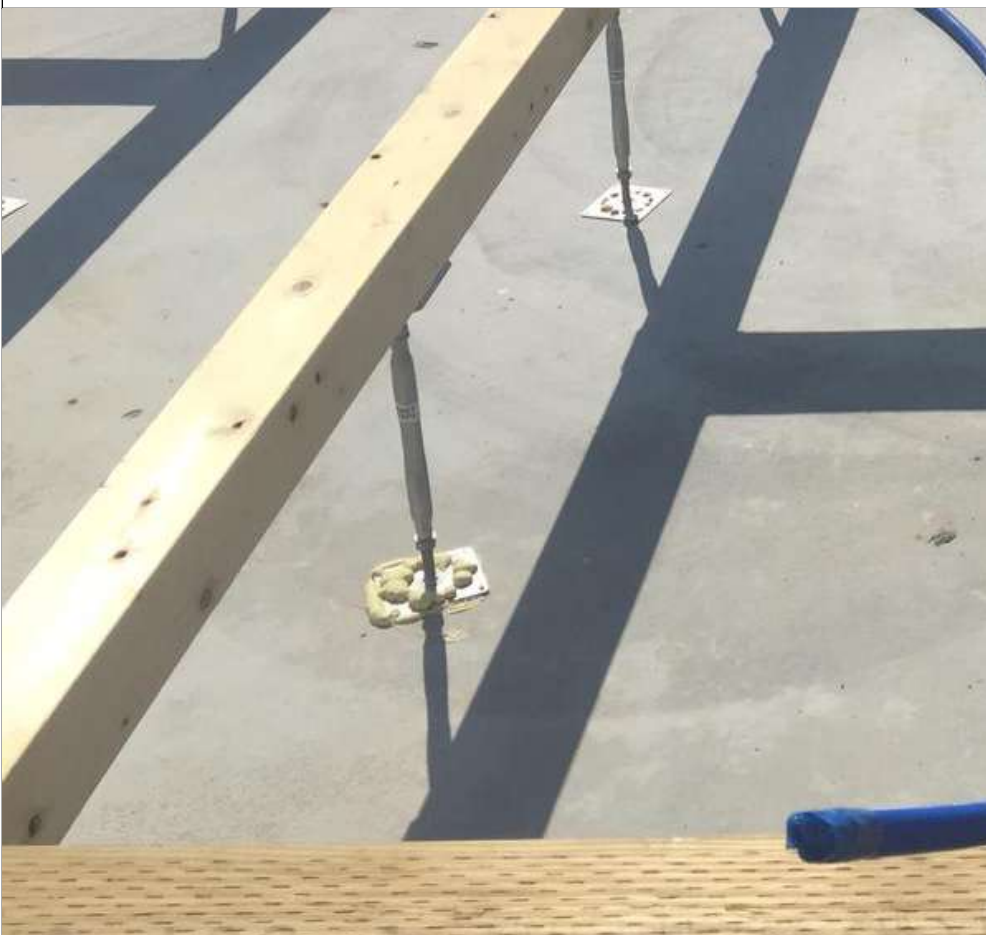
1-4口基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。(2/2)

備考



1-5口鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。

備考



1-8口強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。

備考



基準値
15
実測値

1-9口床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。

備考



1-10口外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。

備考



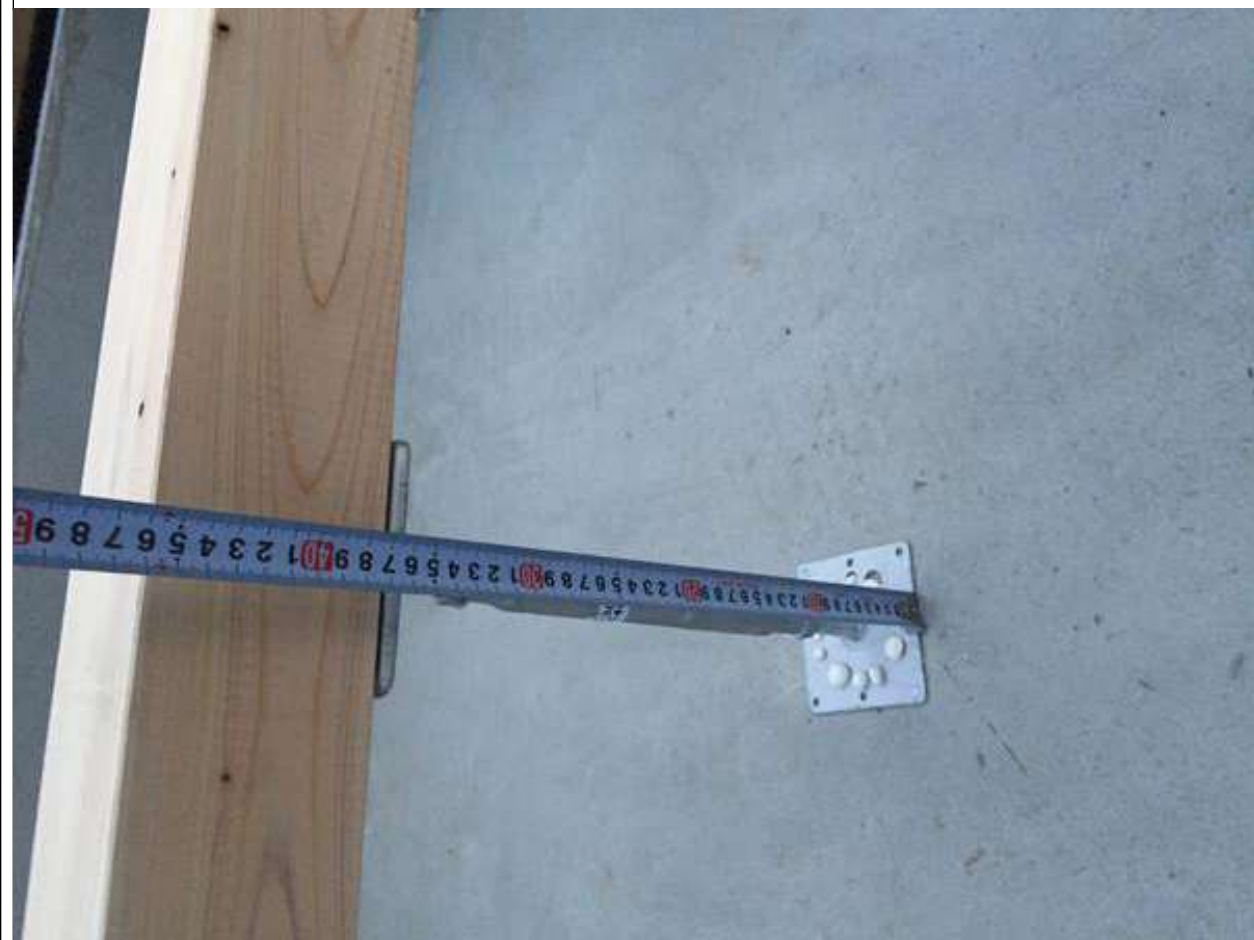
1-11 外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。

備考



1-12 鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか

備考



1-13口接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。

備考

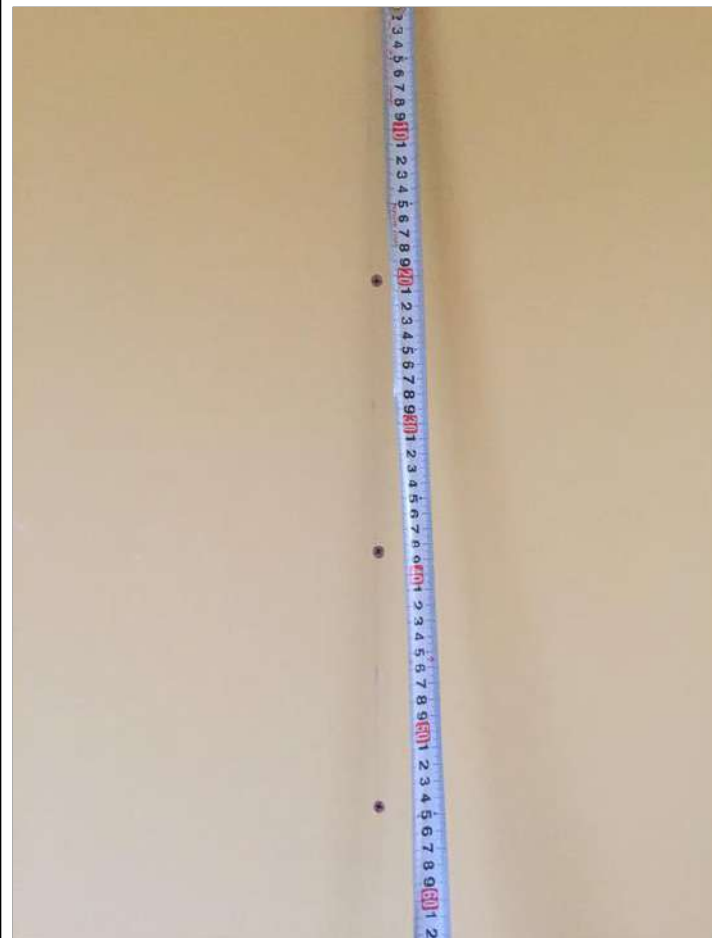


1-14 壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する

備考

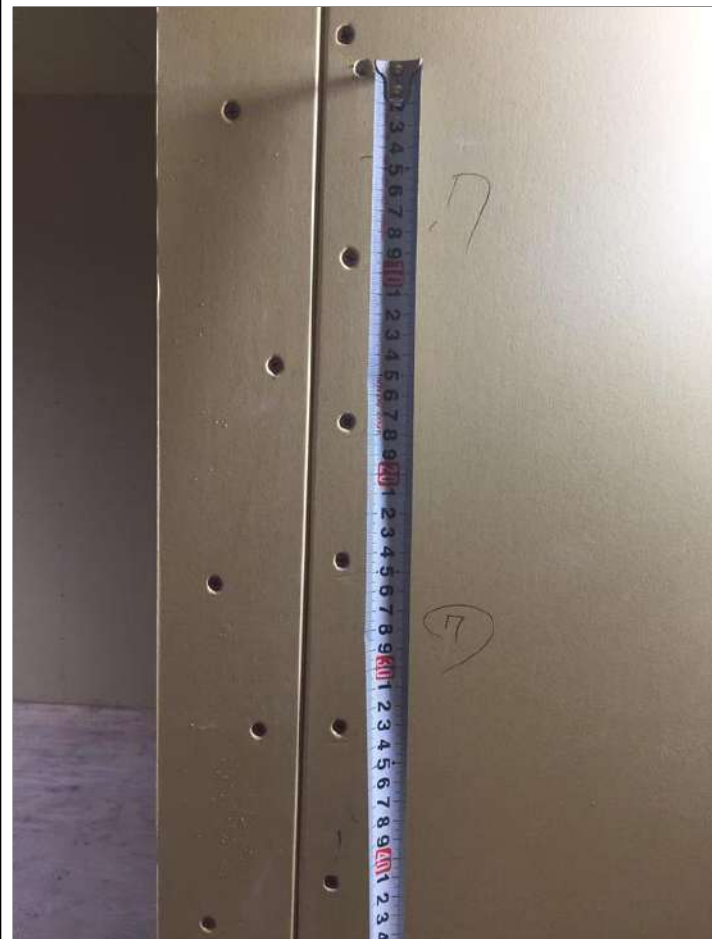


<p>1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(1/2)</p>	<p>備考</p>
--	-----------



<p></p>	<p></p>
---------	---------

<p>1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(2/2)</p>	<p>備考</p>
--	-----------



<p></p>	<p></p>
---------	---------

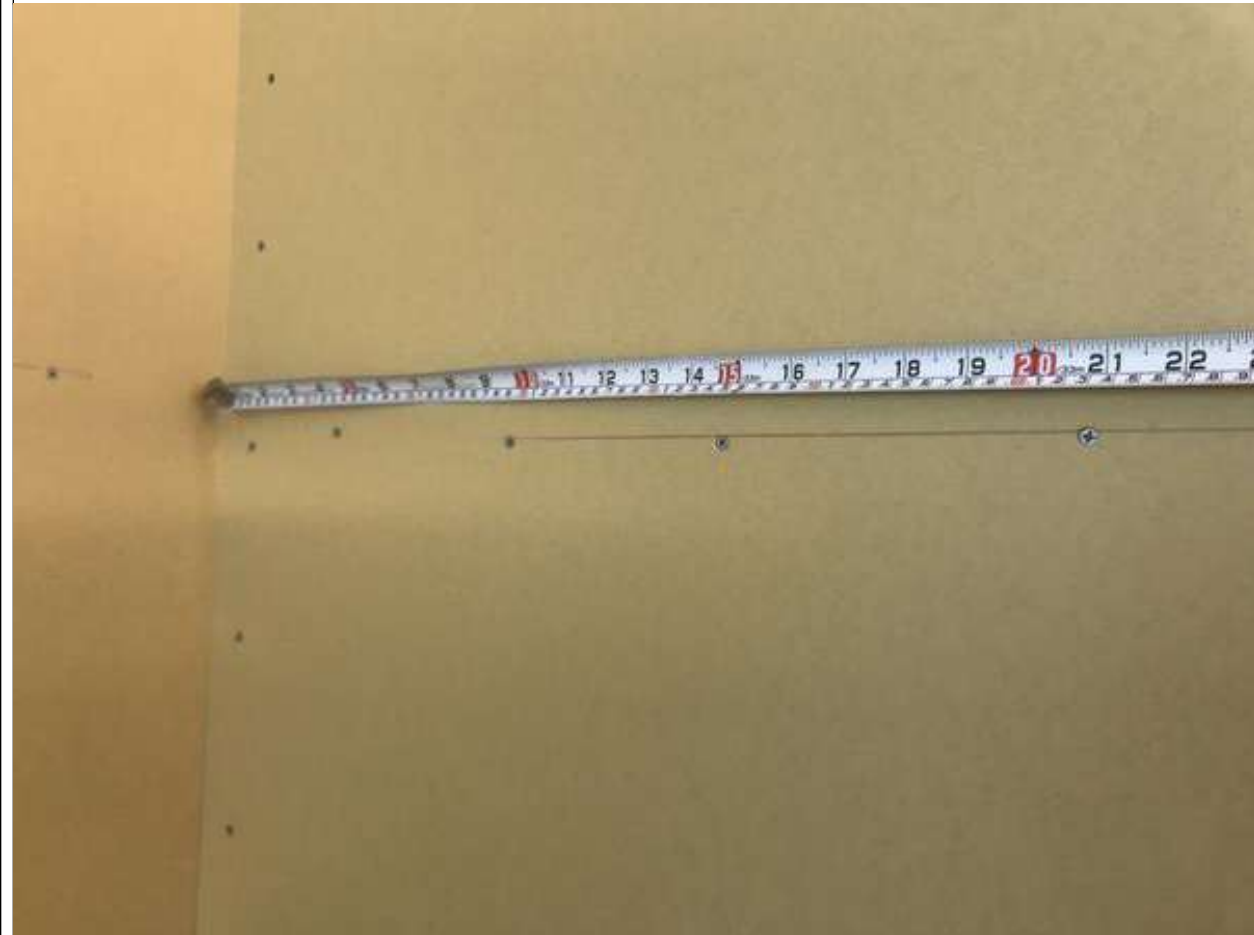
1-16 壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける

備考



1-17 壁ボードの空きは2mmを許容とする

備考

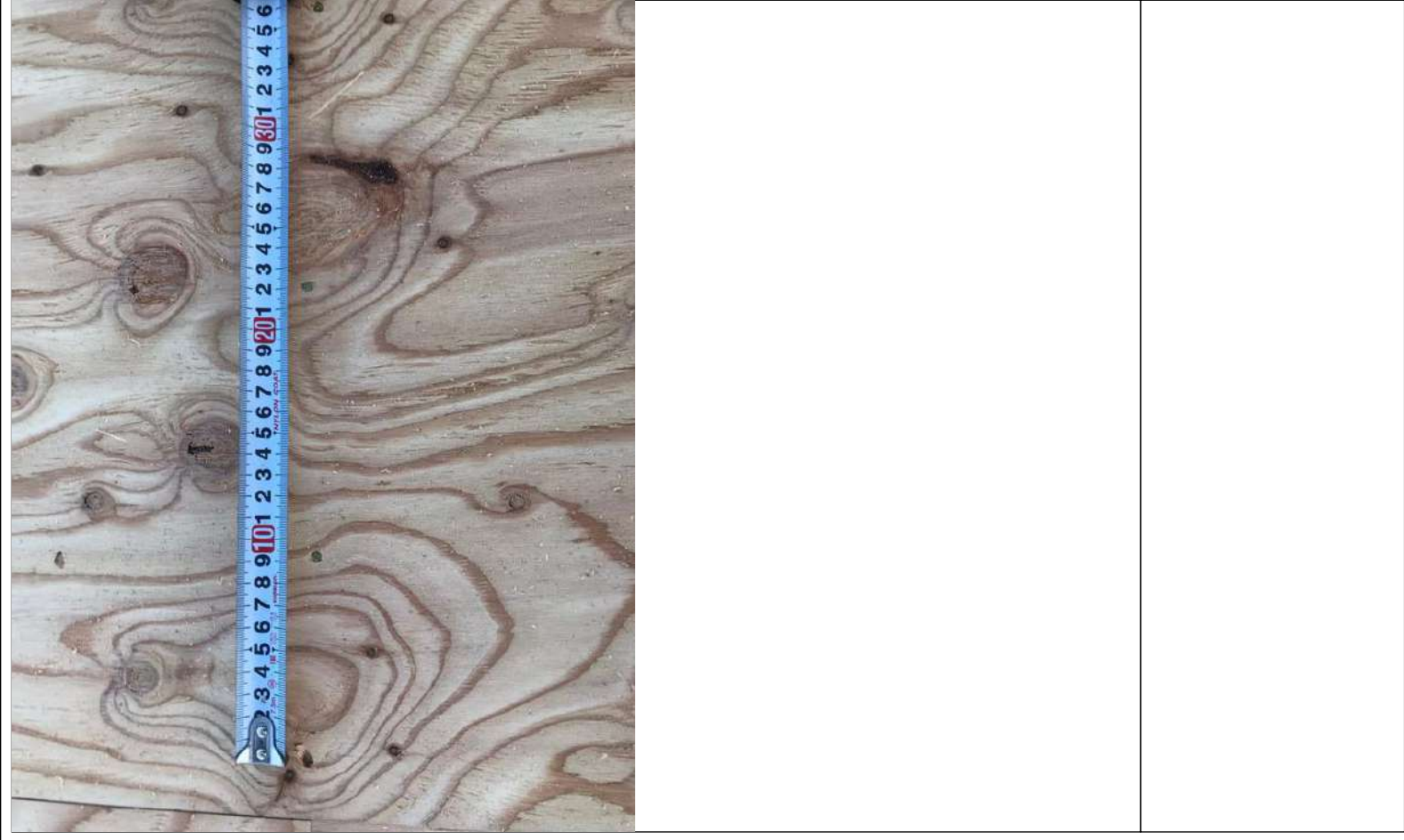


基準値
2
実測値

<p>1-18 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。(1/2)</p>	<p>備考</p>
---	-----------



<p>1-18 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。(2/2)</p>	<p>備考</p>
---	-----------



1-19 内側から見て屋根に外し釘かないか確認する。釘は合板端部より10~15mm離す。

備考



1-21 GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm
内側に

備考



1-22 建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下（流れ方向）は100mm以上、左右（長手方向）は200mm以上重ね合わせる。（未施工の場合、ブルーシート養生する）下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。（ルーフィング施工前に外し釘を確認）

備考



1-23 屋根ルーフィングの立ち上がり250mm以上確保し、上端は気密テープで圧着する。かつ雨押さえ上端より50mm以上とする

備考



1-24 小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。

備考

